

1. 研究活動

<p>ソーラー発電によるミスト機構を活用した可搬式環境クーリングシステムの製品企画、およびそのデザイン開発（地元中小企業のためのエコ製品提案） 名古屋芸術大学の研究助成による研究</p>	<p>2011. 4. 1～ 2012. 3. 31</p>	<p>①2012年教員展 発表会場：名古屋芸術大学西キャンパス A&amp;D センター 期間：2012年6月15日～20日 展示内容：デザインモデル兼試作およびコンセプトパネルの展示 ②秋葉原 「チームエコラボ」 ショールーム展示 期間：2012年7月15日～8月31日 展示内容：デザインモデル兼試作の展示</p>	<p>東海地区、中小企業の技術を活用し、今後、社会が特に必要とする省エネプロダクトを企画すると同時にデザインを開発した。開発製品は、地元企業が研究中の小型ソーラー発電システムとミストシステムをベースにし、これを組み合わせて家庭や小規模店舗での使用を前提としてコンシューマ用の製品を開発。システムは一切の電力をソーラー発電によりシステムを稼動するため、今後予想される夏季の電力不足下でも十分に活用することができる。これを新たなコンセプトによりその構造、デザインを一新、新たな製品として提案した。</p>
<p>デザイン研究所共同研究『新世代モビリティ開発プロジェクト』 自動車部品メーカーのための小型車両のスケッチ提案</p>	<p>2011. 4. 1～5. 31</p>	<p>名古屋芸術大学 デザイン学部デザイン研究所 プロダクト&amp;スペースブロック</p>	<p>開発は芸術大学という環境を生かし、将来のトレンドリーダーとなる、デザインに対して意識の高い若年層を中心にスタッフを採用、これに研究員の経験による判断を付加することで完成度の高い商品の姿を模索。提案は国内の乗用車関連用品で、社会動向、自動車市場動向を考慮し、先行開発しておかなければならない商品を想定し提案した。</p>
<p>チームエコラボ+デザイン研究所 プロダクト&amp;スペースブロック共同研究</p>	<p>2011. 4. 1～8. 31</p>	<p>名古屋芸術大学 デザイン学部デザイン研究所 プロダクト&amp;スペースブロック+チームエコラボ</p>	<p>東海地区の地元中小企業による環境製品研究組織「チームエコラボ」の依頼により共同研究を行い、環境を考慮した次世代新製品の先行開発を行った。開発対象製品は低炭素社会の実現に向け、環境の保持、改善に貢献し、広く社会に恩恵をもたらすことを前提とした。この研究を発展させ、ソーラー発電によるミスト機構を活用した可搬式環境クーリングシステムの製品企画、およびそのデザインを開発、試作モデルまで制作した。</p>
<p>教員展</p>	<p>2010. 6. 1</p>	<p>名古屋芸術大学 B ギャラリー</p>	<p>電動車いす先行研究用ショーモデル『alicia』の展示</p>
<p>「ホンダデザインセミナー2011」</p>	<p>2011. 6. 4-5</p>	<p>ホンダ技術研究所主催 名古屋芸術大学 ID コース協賛 会場：名古屋芸術大学西キャンパス X 棟 313, 314 教室</p>	<p>カーデザイナーの育成を目的に、株式会社ホンダ技術研究所が主催、名古屋芸術大学が協賛するデザインセミナー、東海地区の大学や専門学校でインダストリアルデザインを専攻する総勢 31 名（名古屋芸大生 11 名）の学生が参加した。</p>
<p>「若年向自動車リサーチ及びコンセプト制作」の受託研究</p>	<p>2011. 9～12</p>	<p>名古屋芸術大学 デザイン学部デザイン研究所 プロダクト&amp;スペースブロック</p>	<p>カーメーカーの依頼により、若年向け自動車リサーチ及びコンセプト制作の開発を受託。提案は国内の自動車の範囲で、その動向を考慮し、先行開発しておかなければならない商品を想定し、リサーチ、コンセプトの制作までを行った。</p>

『アールプイフォーワイルドグース株式会社 新商品開発』の受託研究	2011. 11. 1 ～3. 31	名古屋芸術大学 デザイン学部デザイン研究所 プロダクト & スペース ブロック	アールプイフォーワイルドグース株式会社の依頼により、『新商品開発』の開発を受託。国内の小型車4輪駆動車の動向を考慮し、先行開発しておかなければならないアフターマーケット商品を想定しリサーチ、スケッチの制作までを提案。開発は芸術大学という環境を生かし、将来のトレンドリーダーとなる、デザインに対して意識の高い学生をスタッフに採用、これに経験による判断を付加することで精度の高い次期商品を開発した。
『アールプイフォーワイルドグース株式会社 新商品開発』の受託研究について、専門誌『JIMNY SUPER SUJY』にプロジェクトの内容を連載	2012. 2～6	株式会社芸文社 専門誌『JIMNY SUPER SUJY』2012年 2、4、6月の各号	アールプイフォーワイルドグース株式会社の依頼により受託した新商品開発研究の内容を3号にわたり連載した。
『クリエイティブ業界に就職するためのポートフォリオの実例集』[単行本]執筆協力	2011. 12. 22	株式会社ワークスコーポレーション書籍	就職活動で実際に使われたポートフォリオを集めた実例集。この中の、ポートフォリオ業界研究3 プロダクトデザイン業界についての解説、およびプロダクトデザイナー2名のポートフォリオ評価を執筆した。
卒業制作展訪問	2011. 1～3	会場：各大学卒業制作展会場 主催：日本インダストリアルデザイナー協会 中部ブロック	JIDA 企画委員としてイベントを主催。デザイン系大学、専門学校の卒業制作展を訪問、学生のプレゼンテーションを受け作品を評価。JIDA 賞を授与した。

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 有 無

授業科目 製品企画論 A		プロダクトデザインにおける様々な仕事の種類を細かく説明し、今後の職種選択の参考となるよう講義を進めた。 講義形式は実際のメーカー内でのプレゼンテーションを模した形式で行い、リアリティーを持たせた。 また、カラーデザインについては自動車メーカーから現場のデザイナーを特別講師として依頼し、特別講義を開催した。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイナーとしての経験を生かし、デザインの現場で何がどのように行われているのか、可能な限り最新の情報を元にリアルな講義を工夫した。	デザインの実験にできるだけ近似した内容のパワーポイントを毎回作成しこれを活用した講義。	
授業科目 デザイン実技Ⅲ (PS) ID		デザインイベントや講演会、展示会などできるだけ多くに学外授業として参加した。 1. ウェルフェアの見学 (ユニバーサルデザイン関連) 2. アクシスギャラリー『金の卵』展参加  後期授業ではカーデザインに集中したカリキュラムとし、より専門的な経験を積むことができるようカリキュラムを展開した。また、企業によるデザインの特別授業を積極的に取り入れ、卒業後の進路や、現場のデザインを理解できるよう配慮した。
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
デザイン表現力の向上を第1目標とし、スケッチ、レンダリング、モデリングを、実際に手を動かしながら指導を行った。また特別公開講座によるスケッチセミナーにも授業として参加した。	プロデザイナーのスケッチやイメージボードなどできるだけ現場での仕事が体感できるような資料、情報を提供した。	

授業科目 デザイン演習Ⅱ-1 (PS-ID)		授業の後半を、名古屋芸術大学とホンダ技術研究所により開催されたスケッチセミナーに参加。これにおいて、プロデザイナーから集中講義形式で直接デザインやスケッチの指導を受け、デザインの現場でどのようなデザインやスケッチが必要か実体験した。
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
プロダクトデザインの中でも特にカーデザインを中心にその表現技法を学ぶ演習。これを学ぶことにより、さまざまな工業製品におけるスケッチ表現の基礎とする。また将来カーデザインに関する仕事を考える学生には、その基本となる表現力の習得を目標とする。	スケッチ手順のPPT、プロデザイナーによるスケッチサンプルを配布。	
授業科目 立体造形		手を動かし、立体に触れることにより三次元の楽しさやデザインの広がり、可能性を感じ取ることができるよう指導、特に感動を味わうことができるよう心がけた。また、他の学生の作品を全員で評価し、デザインやアイデアには限りなく可能性があることを感じさせた。本年度は特に2クラス合同で授業を進め、学生がより多くの作品に触れることができるよう展開を考えた。
◆前期 □後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
1年生はこれまで立体に触れたことの無い学生がほとんどで、回転体を製作することで、立体表現に親しみ、興味を持つことを目標とした。	行程を示すパワーポイントによる講義を実施。	
授業科目 インターンシップ演習		実際の現場での体験を行うことにより、初歩的な職業的スキルを身につけるとともに、社会人として働くことの意義を感じ取り、将来の職業選択や職業意識の育成に役立てることができた。また、各自の職業に対しての適正も確認することができるよう配慮した。この積み上げが成果をあげてきており、毎年インターンシップの希望者が増加してきている。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
企業での職業体験を通し、実社会でのデザイナーとして働くために心掛けておかなければならないことを理解すると同時に、これに関する事前授業を行い、マナーやルールを指導した。	学生支援課と共同でインターンシップ企業に関する資料、マナーやルールについてのテキストを作成。	
授業科目 卒業研究		最終学年の最後の作品として、調査から課題の発見、その研究に基づき、製品を開発するまで、プロとして生きていくためのデザインプロセスを体験させた。JIDA 次世代委員会学生卒展訪問参加。
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
より広い範囲にその課題を求め、実体験を積み重ねる中で課題を発見するように指導。	あえて、資料を用意せず、各自が自分自身の手で素材を発見することを求めた。	

### 3. 学会等および社会における主な活動

自動車技術会 デザイン部門委員会	2002年デザイン研究会として発足、2004年より部門委員会に昇格発足時はスズキ代表委員・幹事として、2005年より中立の委員として現在まで活動。	<p>◆活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりの源流にたずさわるカーデザイナーが広く自信と存在感を示すための環境作り。</li> <li>・未来を担う若年層に向けてカーデザインの意味や重要性を伝えカーデザイナーへの動機付け。</li> <li>・日本の自動車産業におけるカーデザインの重要性をアピールし、カーデザイナーの社会的地位の向上。</li> </ul>
---------------------	---	--

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーデザイナーだからこそ実現可能なユーザーと技術者のパイプ役。</li> <li>◆活動内容</li> <li>・シンポジウム、フォーラムの開催</li> <li>・デザイン講習会開催</li> <li>・技術者との交流会</li> <li>・基準統一に関する働きかけ</li> </ul>
1日芸大生	2011. 7. 31	◆小学生のためにデザインの実体験をとおして、その楽しさを理解してもらうイベント。ID コースでは、真空成型の実体験とこれにより出来上がるトレイを使ったゼリー作りを行い、これに講師として参加した。
日本インダストリアルデザイナー協会 (JIDA)	2006. 4 入会 2007 ~ 2011 年の間幹事	◆中部ブロック役員として総会、セミナーなどの開催、次世代委員会委員として若手や学生の育成を目的としたイベントの開催